

加藤裕己教授追悼号の発刊に寄せて

加藤裕己教授が、2012年1月21日、病氣療養中にお亡くなりになり、その突然の訃報に、われわれ一同は大きな衝撃を受けました。

私は加藤先生が亡くなる前年夏に学内の仕事を一緒にさせていただきました。先生はその仕事を手際よく進められ、他のメンバーが本来やるべき事までカバーして下さり、感謝したことを思い出します。その後、2011年の秋の教授会で、最近ちょっと体調が悪いということ、同僚の一人に漏らしていらっしゃいました。そして、2011年11月2日に学長を選出する選挙のための全学教授会でお姿をお見かけしたのが最後となりました。その月の教授会で、先生が検査入院され、年明けには復帰される、との報告がありました。当然、われわれ全員、加藤先生が学期末試験の頃には復帰されることを期待していました。しかし、ちょうど学期末試験が始まる直前に、訃報に接し、驚きと悲しみに包まれました。

加藤先生のお人柄は温厚で、誰にも好かれる方でした。先生をお送りするお通夜では、いつまでも途切れことなく弔問客の列が続き、加藤先生が同僚や学生など周囲の多くの人々から慕われていたことがよくわかります。個人的なことで恐縮ですが、加藤先生が着任されたとき、私は入試委員長を務めており、それに関連していろいろとご迷惑をおかけしたことがありましたが、先生は苦情ひとつ口にされず、黙々と仕事をお進め下さいました。本当に感謝しております。

加藤先生は1974年3月に東京大学経済学部をご卒業後、経済企画庁（現内閣府）に入庁され、一貫して調査・研究の仕事に従事されてきました。1982年9月からの4年間、経済協力開発機構(OECD)においてエコノミストを務められたほか、埼玉大学や経済協力基金への出向など、様々なキャリアを積み重ねてきました。そして、2002年に内閣府大臣官房審議官を最後に内閣府を退職されましたが、この間、執筆責任者として経済企画庁・内閣府が発行する様々な白書や経済報告書の執筆という重責を果たされてきました。

内閣府を退任後は、日本エネルギー経済研究所の理事や千葉商科大学大学院の客員教授を務められたほか、2005年10月からは本学経済学部の非常勤講師を務められました。そして、2006年4月に本学経済学部の教授として着任され、以来本学において教育・研究活動に力を注がれてきました。本学では、世界経済論、国際経済機構論、日本経済論などを担当され、教室はいつも満員の学生たちの熱気であふれていました。

加藤先生は、マクロ経済学や計量分析をベースに、日本経済や国際経済に関するさまざまな問題に取り組まれてきました。特に、経済企画庁時代は世界経済モデルという大規模計量モデルの開発に取り組まれ、大きな成果を残されています。また、応用一般均衡モデルを用

加藤裕己教授追悼号の発刊に寄せて

いて不良債権問題や貿易問題といったマクロ・国際経済に関する問題のみならず、地球環境問題やエネルギー問題といった問題にも切り込まれて、政策提言や問題提起をされてきました。

ちょっと早口ですが、いつもにこやかに話しされる加藤先生のお姿が、今もまぶたに焼き付いています。2012年度は国内研究員として1年間研究に没頭される予定であっただけに、加藤先生のご無念も推測に余りあります。これからさらに多方面でのご活躍を期待していただけないか、突然のご逝去は誠に残念でなりません。謹んで、加藤先生のご冥福をお祈りいたします。

2012年9月13日

経済学部長 浜野忠司